

PATENT ABSTRACTS OF JAPAN

(11)Publication number : 06-019926

(43)Date of publication of application : 28.01.1994

(51)Int.Cl.

G06F 15/21

G06F 15/40

G06F 15/62

(21)Application number : 04-174481

(71)Applicant : NIPPON DIGITAL EQUIP KK

(22)Date of filing : 01.07.1992

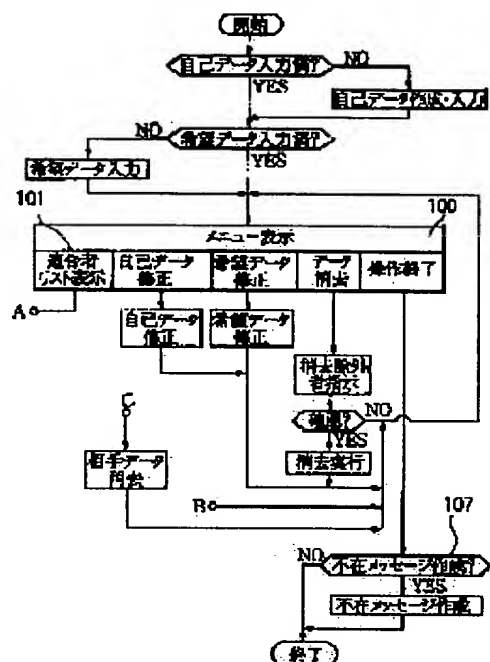
(72)Inventor : SHIODA KENTARO

(54) COMPUTER NETWORK FOR PERSONNEL INTERMEDIARY SERVICE

(57)Abstract:

PURPOSE: To highly surely search a required personnel without consuming useless labor and cost while keeping privacy by executing real time interaction by character codes, sound, or a still or moving image and sound.

CONSTITUTION: A message including character codes, sound, a still image, or a moving image for a specific person in an adaptive person list 101 displayed on a display means through a character code information transmitting/receiving means, a sound information transmitting/receiving means or an image information transmitting/receiving means is transferred to a computer terminal for the specific personnel through an information transfer network. When the specified personnel can execute interaction, real time interaction can be offered, and when the personnel requires to accept the offer, the real time interaction can be executed by character codes, sound, or a still or moving image and sound through the character code information transmitting/receiving means, the sound information transmitting/receiving means or the image information transmitting/receiving means. This computer network can be widely and effectively applied to various services.



LEGAL STATUS

[Date of request for examination] 23.06.1999

[Date of sending the examiner's decision of rejection] 20.08.2001

[Kind of final disposal of application other than the examiner's decision of rejection or application converted registration]

[Date of final disposal for application]

[Patent number]

[Date of registration]

[Number of appeal against examiner's decision]

THIS PAGE BLANK (USPTO)

(19)日本国特許庁(JP)

(12)公開特許公報(A)

(11)特許出願公開番号

特開平6-19926

(43)公開日 平成6年(1994)1月28日

(51)Int.Cl. ⁵	識別記号	庁内整理番号	F I	技術表示箇所
G 0 6 F 15/21		Z 7052-5L		
15/40	5 3 0	V 7218-5L		
15/62	4 6 5	A 9071-5L		

審査請求 未請求 請求項の数5(全12頁)

(21)出願番号 特願平4-174481

(22)出願日 平成4年(1992)7月1日

(71)出願人 000229313

日本デジタルイクイップメント株式会社
東京都豊島区東池袋3丁目1番1号

(72)発明者 潮田 健太郎

神奈川県横浜市保土谷区神戸町134番地
日本デジタルイクイップメント株式会社
研究開発センター内

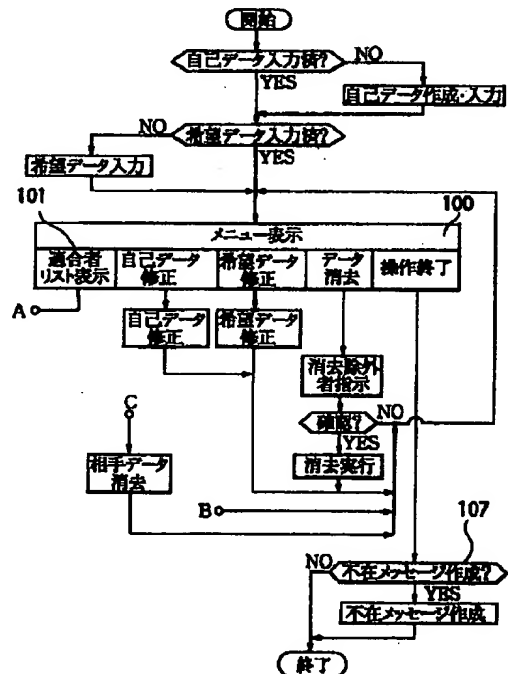
(74)代理人 弁理士 中村 稔 (外6名)

(54)【発明の名称】 人物仲介用コンピュータネットワーク

(57)【要約】 (修正有)

【目的】 労力や費用をかけず、高い確度にて希望する相手を探すことのできる人物仲介用コンピュータネットワークを提供する。

【構成】 希望の相手を探したい利用者が各コンピュータ端末に、自己データおよび希望データを登録するための登録手段を備え、登録された希望データと相手データを対比して適合性の高い相手のリストを表示手段に表示させる適合者リスト作成手段と、表示手段に表示された適合者リストのなかの特定の相手に対し、文字記号情報送受信手段、音声情報送受信手段または画像情報送受信手段を介して、文字記号、音声、画像を含むメッセージを、情報転送ネットワークを通して相手のコンピュータ端末へと転送でき、相手が可能な場合は実時間の対話申込みを行うことができるように構成する。



【特許請求の範囲】

【請求項1】 希望の相手を探したい利用者によってアクセスしうる複数のコンピュータ端末を情報転送ネットワークにて接続した人物仲介用コンピュータネットワークにおいて、前記コンピュータ端末は、自己データおよび希望データを登録するための登録手段と、文字記号情報や画像情報を表示する表示手段と、文字記号情報を送受信するための文字記号情報送受信手段と、音声情報を送受信するための音声情報送受信手段と、画像情報を送受信するための画像情報送受信手段と、前記登録手段に登録された希望データと相手データを対比して適合性の高い相手のリストを前記表示手段に表示させる適合者リスト作成手段と、前記表示手段に表示された適合者表示リストから特定の相手データを選択して前記表示手段に表示させる選択手段とを備えており、前記表示手段に表示された適合者リストのなかの特定の相手に対し、前記文字記号情報送受信手段、音声情報送受信手段または画像情報送受信手段を介して、文字記号、音声、静止画像または動画像を含むメッセージを、前記情報転送ネットワークを通して相手のコンピュータ端末へと転送でき、相手が可能な場合は実時間の対話申込みを行なうことができ、相手がこの対話申し込みに応じる場合は、前記文字記号情報送受信手段、音声情報送受信手段または画像情報送受信手段を介して、文字記号、音声あるいは静止画像または動画像と音声により実時間の対話を行えるようにしたことを特徴とする人物仲介用コンピュータネットワーク。

【請求項2】 前記コンピュータ端末は、利用者が自分自身が送信する実時間の対話手段である音声、あるいは、静止画像または動画像を、対話中に任意に切り替えることができるようにする切り替え手段を含む請求項1記載の人物仲介用コンピュータネットワーク。

【請求項3】 前記コンピュータ端末は、利用者が自分のデータの項目に関して選択的にマスクをかけることができ、相手とのやり取りにより、特定の相手に対してのみ、選択的に前記マスクを開示することができるようにする手段を含む請求項1または2記載の人物仲介用コンピュータネットワーク。

【請求項4】 前記コンピュータ端末は、前記適合者リストに表示された相手データをお互いに相手の記憶領域に記録させるが、データの持ち主が希望した時は相手の記憶領域から前記データを一方的に消すことができるようにする手段を含む請求項1または2または3記載の人物仲介用コンピュータネットワーク。

【請求項5】 前記コンピュータ端末は、前記適合者リストに表示された相手のデータをお互いに相手の記憶領域に記録させるが、記録が行われた時から一定の期間が経過したのちは、自動的に前記データが消滅されるようにする手段を含む請求項1または2または3記載の人物仲介用コンピュータネットワーク。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【産業上の利用分野】本発明は、コンピュータを利用して条件にあう相手を見つけ出すシステムに関するものである。

【0002】

【従来の技術】従来、結婚相手や求人求職など、条件にあう相手を探し出す方法として、コンピュータのデータベースを利用することが行われている。

【0003】

【発明が解決しようとする課題】しかしながら、コンピュータのデータベースに記憶されたデータだけでは、最終的な判断はできず、やはり相手と話し合って見なければ、お互いに気に入るかどうかはわからない。ところが、相手が離れた場所にいる場合は、相手に会いにゆくための時間と費用がかかるが、データだけで絞り込んだ相手に本当に会う価値があるのかどうかはわからず、労力の割りに成功する見込みが低い。

【0004】また、個人のプライバシーなどの問題から、いきなり相手に会うことは避け、仲介人をたてることが多い。結婚相手の場合なら仲人、求人求職の場合ならヘッドハンターと呼ばれる立場の人であり、お互いを知っている立場にあってプライバシーの段階的解除や条件の調整を行ってくれるが、仲介者はやはり、時間や費用を使ってお互いの相手に会ったりしなければならない。また、仲介者に対して気を使ったり、謝礼を払うなどしなければならない。

【0005】このように従来、結婚紹介や求職は人手をかけて、行われてきた。先進国では、結婚相手や、求人求職など、人と人との出会いについての需要はこれまでに高まり、地域的にも拡大しており、もはや従来のやり方だけでは追いつかなくなっている。

【0006】近來目覚ましい発展を見せるコンピュータネットワークを、このための有力な手段として利用できることが期待されるが、単に登録者のデータをアクセスすることだけでは、不充分である。さらに進んで、相手とある程度の直接的な対話が可能でこそ、はじめて有効な仲介システムとして機能するといえる。

【0007】一方、相手との直接的な対話というだけであれば、現在でも自他の映像をコンピュータ表示装置に映し出して遠隔会議を行なうシステムが実現されているが、これは、あらかじめわかっている相手を出して話し合う性格のものであり、既に知っているもの同士の対話がほとんどである。

【0008】本発明の目的は、このような従来技術に鑑みて、無駄な労力や費用をかけずにしかもプライバシーを守りつつ、高い確度にて希望する相手を探すことのできるような人物仲介用コンピュータネットワークを提供することである。

【0009】

3.

【課題を解決するための手段】本発明によれば、希望の相手を探したい利用者によってアクセスしうる複数のコンピュータ端末を情報転送ネットワークにて接続した人物仲介用コンピュータネットワークにおいて、前記コンピュータ端末は、自己データおよび希望データを登録するための登録手段と、文字記号情報や画像情報を表示する表示手段と、文字記号情報を送受信するための文字記号情報送受信手段と、音声情報を送受信するための音声情報送受信手段と、画像情報を送受信するための画像情報送受信手段と、前記登録手段に登録された希望データと相手データを対比して適合性の高い相手のリストを前記表示手段に表示させる適合者リスト作成手段と、前記表示手段に表示された適合者表示リストから特定の相手データを選択して前記表示手段に表示させる選択手段とを備えており、前記表示手段に表示された適合者リストのなかの特定の相手に対し、前記文字記号情報送受信手段、音声情報送受信手段または画像情報送受信手段を介して、文字記号、音声、静止画像または動画画像を含むメッセージを、前記情報転送ネットワークを通して相手のコンピュータ端末へと転送でき、相手が可能な場合は実時間の対話申込みを行なうことができ、相手がこの対話申し込みに応じる場合は、前記文字記号情報送受信手段、音声情報送受信手段または画像情報送受信手段を介して、文字記号、音声あるいは静止画像または動画画像と音声により実時間の対話を行えるようにする。

【0010】

【実施例】次に、添付図面に基づいて本発明の実施例について本発明をより詳細に説明する。

【0011】本発明の特徴は、お互いに知らない同士であっても、まず基本的な条件が合う相手を見つけ出すことから始まり、相手との音声や画像による対話の過程で、非公開にしていた情報をお互いに相手だけでは徐々に出し合うことにより、認識を深め、対話により感触を確かめるといふ、人と人との出会いの過程を連続したプロセスとしてコンピュータネットワークの中に造り込むところにあり、その目的は、コンピュータを仲介者として機能させ、時間、経費、秘密保持、成功率等の点で、効果的な出会いのシステムを提供するものである。

【0012】本発明は、多数のコンピュータまたはコンピュータ端末が広範囲の地域にわたり結ばれたネットワーク環境を有効に利用することを前提としている。例えば、添付図面の図15に示すように、全国各地にある紹介業の支店にコンピュータ端末が多数置かれており、各支店は情報転送ネットワークにて繋がれている。この図15は、結婚紹介の例であり、図中、Mは、男性、Fは、女性、Cは、コンサルタント、Iは、インストラクタを示している。MやFのためのコンピュータ端末は、それぞれ衝立などで仕切られた小部屋（ブース）のなかにあることが、プライバシー保持上望ましい。

【0013】これらの、ネットワークやコンピュータ、

4

端末は、マルチメディア化されていて、数字や文字データのみならず、音声、静止画像、動画画像を同時に扱える。つまり、これらのメディアを簡単な操作で入出力でき、データベースとして扱え、かつ実時間でこれらを通信用できるものである。このようなマルチメディア環境は、近年急速に普及しつつある。マルチメディア端末は、従来のCRT（陰極線管）やキーボード、ポインティングデバイスの他、マイク、スピーカ、テレビカメラなどが接続されており、音声や画像をやり取りできる。マイクとヘッドホンスピーカを一体化したヘッドセットを装着することも一般的である。また、表示と入力を兼ねたフラットパネルペン入力ディスプレイを用いることもできる。これについては後でより詳細に説明する。

【0014】本発明のシステムにおいては、相手を探しているものは、先ず、自分のデータ（自己データ）および相手に希望する条件データ（希望データ）を各自コンピュータに登録する。例えば、結婚仲介の場合、自己データとは、年齢、身長、体重、兄弟関係、学歴、職業、収入、趣味、特技の文字データ等である。希望データは、相手に希望する条件であり、年齢範囲、身長体重等の範囲、収入の範囲等で、ほとんどが文字データである。希望データには、優先度をランクづけしてもよい。

【0015】求人の場合、求人側のデータとは、募集職種、経験、年齢範囲、勤務地域、待遇等である。求職側のデータも同じような項目となり、いわゆる職歴書に書かれる項目が含まれる。さらに、写真、自己紹介の録音、録画を付加することもできる。ただし、初めから氏名や住所、誕生日、写真、映像などのデータは、公開したくないなら、必要に応じてこれらの項目に、マスクをかけた（相手に見えない）状態で登録することができる。

【0016】このように、本発明のシステムでは、お互いに出会いを求めている多数の人々が、自己データと希望データを登録することにより、ネットワーク上にデータベースを形成する。以後、この目的でネットワークを使用する人々を利用者（ユーザ）と呼ぶ。

【0017】次に、本発明のシステムにおけるユーザに対するプログラムの動きを添付図面を参照して説明する。図1および図2は、点A、点Bおよび点Cにて、互いに結合されるもので、本発明のシステムの全体の動きを説明するためのフローチャートを示している。図1に示されるように、自己データと希望データの登録や修正が終わった後、メニュー100が表示される。例えば、このメニューの中から「適合者リスト表示」101を選ぶと、適合性が高い相手のリストが表示される（図4参照）。このリストの中からある人を選んでその人の詳しいデータ（相手データ画面）を表示させることができる。

【0018】適合者リストの内の一つを選ぶと、詳しいデータが表示される。この様に適合者リストの1つ1つ

についてデータを読み出して、適合しないと判断した相手のデータは消去することができる。相手側の適合者リストからも表示が消える。例えば、AとB二人が適合する場合、Aのワークステーションの適合者リストにBが表示され、Bの適合者リストにもAが表示されている。Aが適合者リストからBを選んで詳しいデータを見てから不適合と判断した場合、Bのデータを消去すると、B側の適合者リストからもAの表示が消える。このように、不適合と思われる場合、いったん確認のメッセージが現れ、ユーザの確認後消去される。

【0019】このように、確実に不適合と確信できる相手は消去できるので、能率的に検討が行える。以上、相手リストについてその意味と使い方を説明したが、次に、セッションについて説明する。

【0020】適合者リストの中のある相手を指定し、相手データ画面を表示してみて、これはと思う相手がいたら、図2にて参照符号102にて示す「セッション申込み」メニューを選び、ネットワークを通じてその相手を呼び出す。相手がこの呼び出しに応じれば、ネットワークを通じてその相手とセッションを行なうことができる。セッションとは相手との実時間のやり取りのことで、先ず、電話のように音声で話し合ったのち、自分の動画像を送る動画像セッション（テレビ面談）に切り替えることもできる。

【0021】どちらか一方だけが動画像セッションに切り替えることもできる。つまり、相手が動画像セッションに切り替えても、自分は音声だけで応答することができる。この場合、相手の映像は送られてくるが、自分の映像は相手には見えないで音声だけが聞こえる。このように、画像で姿を見せたくない場合は、動画像セッションに切り替えなければよい。また、動画像セッションにした後、これを中止し再び音声のみのセッションに戻ることでもできる（図2のステップ103参照）。双方が動画像に切り替えれば、お互いに相手の映像が見れるので、テレビ面談が成立する。

【0022】セッションを申し込まれた相手がネットワークにアクセスしているときは、チャイム音と共に、相手の画面の端にセッション申込みがされていることを示す表示が相手番号とともに現れる（図5参照）。相手が本名を明かしている場合や、仮称を付けてある場合には、それらも表示される（相手番号、仮称については後で詳述する）。その表示内のデータ表示アイコンを指定すると、セッションを申し込んだ人のデータが表示される。そのデータを見て、セッションに応じるならば、「応じる」のアイコンを指定して、これに応じる。

【0023】セッションを申し込まれた場合のフローは、図3に示す割り込みルーチンとなる。図1および図2のフローにおいて、相手へのセッション申込み中、セッション中、および先に他の相手がセッション申込みをしている場合は、この割り込みは禁止される。セッシ

ン申込みを承諾しない場合は、このセッション申込み表示を無視するか、セッションを断るアイコン「応じない」を指示すればよい。

【0024】申し込んだ相手が、ネットワークにアクセスしていないときは、申し込んだ側に、相手が不在であることが表示される。また、他の人とセッション中であるときは、その旨が表示される。相手がセッションを受け入れ、セッションが開始されると、図11および図12に示すセッション画面がお互いのディスプレイに現れる。つまり、自分のデータと相手のデータである。

【0025】相手に対しマスクを解除してもらいたい項目を伝え、相手がこれに応じればマスクが外される。こうして、お互いに相手のデータを見ながら自分のデータも徐々に開示してゆく。マスクされているそれぞれの項目の上に表示されているマスク解除アイコン「マスクはずす」を指定すると、確認メッセージが現れ、確認の上、マスクが解除される。

【0026】音声セッションを行っている内に適合する相手だという感触を深めたら、画像セッションに切り替えてもよい。こうすると相手に自分の姿が動画で現れる。両者が画像セッションに入れば、面談が成立したことになる。これは、結婚紹介の場合なら、テレビ見合いであり、求人求職の場合ならテレビによる面接である。ここまでくれば、本当に相手に直接合って見る価値があるかがきわめて高い確度で実感できる。一方、途中で気が進まなくなった場合は、セッションを中止することができる。また、結論を先送りして、とりあえずセッションを打ち切ってもよい。

【0027】このようにして、特定の相手に対してアンマスクされたデータは、その相手にとってはアンマスクされた状態で記録される。つまり、自分のデータは、相手によって異なるアンマスク状態でそれぞれの相手の記憶領域に記録されている。また、自分がその相手に対して行ったアンマスク状態も記録される。

【0028】相手側にあるこれらの記録は、その記録の対象者が希望する時には、相手側の記録から消去できる必要がある。例えば、希望する相手が見つかった場合には、その他の相手側にある記録は、相手リストを含めてすべて消去できる必要がある。さらに、このような、消去のための措置がなくても、一定期間が経過後は自動的に消えることが望ましい。また、これらの記録は、持ち出せないように、原則としてシステム側のファイルサーバなどに内蔵されているハードディスクのような非交換媒体の記憶装置に入れておくことが望ましい。これらの消去機能は、個人的な記録が他人のもとにいつまでも残ることを避けることのほか、システムの記憶容量の増大を防ぐ効果もある。

【0029】なお、適合者リストから既にセッションをしたことのある相手を選んだ場合は、アンマスクした状態の相手のデータとともに、自分がアンマスクした状態

の自分のデータも表示されるので、自分および相手がお互いにどこまでデータを開示したかがわかる。

【0030】適合者リストの表示方法は、図4の表示メニュー200からわかるように、いくつかの検索条件や表示順番を指定できる。相手番号201とは、適合者リストに登録されるときに付けられる、固有の番号であり、相手を識別するための基本的な項目となる。

【0031】「あなたが判断する適合度」203（独自評価）、および「あなたがつけた愛称」204（仮称）という項目について説明する。独自評価とは、相手のデータを検討したり、セッションを行った後で、自分にとっての適合性を独自に評価した点数で、例えば、AA、AB、BA、BB、Cのようにつける。また、仮称とは、相手の名前前のマスクをまだ外さないときに、覚えやすく以後の検索に便利のように勝手につけておく仮の名前である。例えば、似た感じの芸能人の名前をつけておく。

【0032】これらの独自評価および仮称は、相手データ表示画面、またはセッション画面において任意に記入できる。これにより、適合者リストを表示するときに、独自評価や仮称という項目によっても、リスト表示の並び替え、検索ができる。例えば、独自評価がAだった相手のみをもう一回検討してみることができる。また、ノリピーみたいな話し方をした女の子のデータを本当の名前を知らなくても、再び検索することが容易にできる。

【0033】次に、メールについて説明する。図2に示される「相手データ表示ウインド」105のメニュー106において「メール」104を選ぶと、メッセージを作成、送付したり、相手からのメッセージを読んだり、それに対して返事を送ったりすることができる。相手が不在であったり、他の人とセッション中であったりする場合でも、セッションの予約申込みなどができる。また、いきなりセッションに入るより、あらかじめメッセージにより、挨拶、自己紹介、質問、相手の意志の確認などをしておきたい場合にも有効である。メッセージの手段としては、音声、文字または画像が考えられる。このうち、音声によるメッセージが入力のし易さや記憶容量の点からも最も適切であろう。

【0034】次に、図1におけるステップ107の不在メッセージについて説明する。これは、自分がネットワークにアクセスしていないときに、セッション申込みがあった場合、相手に自動的に応答メッセージを返すもので、留守番電話のようなものであり、操作終了時などに設定する。これにより、次に、いつ自分が、ネットワークにアクセスする予定か、とか、メールでメッセージを残して欲しい旨など相手に伝えることができる。

【0035】以上、本発明の概要について述べてきたが、この説明からも分かるように、本発明の第1の特徴は、相手データ画面から相手を呼び出し、その場で面談まで行えることである。従来は、データベースから相手

データ画面が表示されるにとどまり、仲介過程の半分程度を果たしていたに過ぎない。本発明においては、データベース機能とリアルタイムのマルチメディア通信機能が有機的に統合され、相手を探すことから相手と面談するところまでが、スムーズに連続して行える特徴を持つ。（相手の不在等により時間的には中断があったとしても、処理の流れの意味としては連続である）。本発明の第2の特徴は、マスクの概念であり、お互いにプライバシーを開示して行くプロセスがシステムに自然に造りこまれていることである。

【0036】ユーザは、コンピュータやプログラムの知識のない人でも、簡単に扱えるよう、操作に関してはすべてその状況に応じたメニューで表示され、マウスやトラックボールなどのポインティングデバイス、または画面を指差すことによりメニューを選択することにより、ほとんどの操作が行われる。また、メッセージを音声入力としたり、仮称などの文字入力を手書き文字認識などにすれば、キーボードの操作ができない人でもこのシステムを利用できる。

【0037】図6は、ユーザのシステム操作の様子を概略的に示している。ヘッドセット400は、ヘッドホンとマイクを一体化したもので、音声の入出力を行なう。テレビカメラ401が備えられており、このテレビカメラ401は、ユーザの画像などの動画像の入力に用いられる。ペン入力表示フラットディスク402は、文字、静止画像、動画像の表示を行なうものである。また、ペン403で各種アイコンを指示する。さらに、このペンにより手書き文字を入力すると文字認識される。この文字認識により、愛称の入力やその他各種の文字入力が行える。

【0038】次に、本発明のシステムを人材仲介の例に適用した実施例について、本発明をより詳細に説明する。図7は、求職側の自己データの初期状態の例を示している。プライバシーに関する項目のいくつかがマスクされている。図8は、求職側の希望データの例を示している。各項目についてA、B、Cにより優先度をつけている。希望データには、ズバリ相手の社名を指定することもできる。この項目は、デフォルト状態（特に変更をしない限り常に設定される状態）でマスクされている。従って、複数の社名を希望しても相手側にはわからない。また、住所の詳細部や氏名も初期状態ではデフォルトでマスクされる。

【0039】図9は、求人側の自己データの例を示している。会社の場合、自己データには、はじめからマスクがほとんどないのが普通である。図10は、求人側の希望データの例を示しており、やはり優先度がつけられている。

【0040】これら双方の自己データおよび希望データをコンピュータが判断し、適合度の高いもののリストをそれぞれの適合者リストに表示する。これは、図4に示

したような画面であるが、求職側には会社のリスト、求人側には、求職者のリストが表示される。ただし、会社名は、マスクされていないのが普通であるので、求職者用の適合者リストには、会社名がはじめから表示され、仮称という項目は不要である。

【0041】このリストに載った段階で相手番号が付与される。適合者リストの中の一つの相手を指定すると、その相手のデータが表示される。相手データでさらに詳細な部分を見たい場合にも、該当するアイコンを指示するとその部分を表示するウインドがポップアップ（表示窓が開く）する。こちらから相手を呼び出す時は、呼び出しアイコンを指示する。

【0042】相手が呼び出しに応じセッションが成立すると、図11のようなセッション画面が現れる。自分

（求職側）は、音声セッション状態であるが、相手（求人側）である人事部の採用担当者は、画像セッションに切り替えているので、その映像900が動画で映し出されている。自分についてのウインド表示901は、画面下半分に現れ、顔写真902、氏名903、現在の勤務先904などをマスクしている。相手についてのウインド表示905は、画面上半分に現れる。相手側の画面には、このウインドの上下位置が入れ変わるが、同様の内容が表示されている。

【0043】映し出された相手は、自社の説明をしたり、求人者の質問に答えたり、また、求人者に質問したりできる。このように求職側は、音声のみで、相手は、音声と画像で、話し合いを行い、求人側は、例えば、現在の勤務先のマスクを外すなど、徐々に相手に自分のデータのマスクを外すなどしていく。話し合いが順調に進むなら、求職者は、ある時点で画像セッション切り替えアイコンを指示して、求人者側も画像セッションに切り替える。そうすると、顔写真のあった部分に現在の求人者の映像が映し出され、ネットワークを通じての面接が成立する。

【0044】セッションが終了すると、セッションの日時やアンマスクされたデータが記録され、再び適合者リストや相手データを表示する時は、この最新の状態のデータが表示される。このようにして、セッションした相手のデータを再度検討してみることができる。

【0045】適合者リストの表示条件メニューから「セッション日時順」を選ぶとセッションを行った日時順に相手が表示され、そのリスト上の一つを選ぶと、再び相手のデータが現れる。アンマスクされた項目は、アンマスク状態で現れる。このようにして、適合者リストから、セッションした相手を選びだし、データを表示し再度検討することができる。

【0046】また、この画面には、再び、図2におけるステップ106のメニューが現れるので、再びメッセージの送付や返答、セッション申込みが行える。つまり、過去にセッションを持った相手と再びセッションを行な

うことができる。こうして、何回かのセッションを行い、未決事項や再考した点を話し合うなどして、対話をよりすすめることができる。このようにして、十分相手を確認めあうことができたなら、結論を出したり、直接会うことにするなどする。その後の連絡にまたこのシステムを使うこともできるが、人材紹介システムとしての使命は終わることになる。

【0047】このように、ある相手と話を決めた場合には、そのほかの相手に与えた自分の記録を消去できる。10 消去された相手の適合者リストには、相手番号とともに（仮称をつけた場合はその仮称とともに）消去された旨が表示される。原則として、相手側にある自分の記録を消去した場合は、自分の側にあるその相手の記録も消える。このようにして、お互いに用のなくなった同士の記録は消されるので安心である。

【0048】次に、本発明のシステムを結婚仲介の例に適用した実施例について、本発明をより詳細に説明する。処理の流れは、職業紹介の場合と同じであり、図1、2、3のフローチャートに従う。

20 【0049】ユーザは、自己データ、希望データ（優先ランク付き）の他、相性テストのチェックリストを入力する。自己データ、希望データの例を、図13および図14に示す。これらの自己データ、希望データと相性データから、適合者が探しだされ、適合者リストに表示される。後のプロセスの流れも、職業紹介の場合と同様である。セッション画面の例を図12に示す。画面上半分に相手（女性）側についてのウインドが現れている。写真は何葉かをめくって見られるようになっている。お互いに自己紹介ビデオなども相手に流せる。データの各項目や、写真、ビデオにマスクをかけることができる。

30 【0050】セッションが成立し、お互いに画像セッションに進めば、いわゆるテレビお見合いが成立する。これで気に入れば、実際に会うことにすればよい。適合する相手が在席している可能性を高めるには、ある程度条件により日を決めてもよい。例えば、曜日により年齢の範囲を決めるとか、再婚希望者の日を決めるなどである。

40 【0051】このように、仲介者に気を使わずに相手を探すことができ、プライバシーも守れ、能率的、経済的である。交際からが本当に相手を決定する重要な段階なのに、今まではその段階に至るまでにいろいろ煩わしさがあった。本発明によれば、この前段階をきわめて合理的に行なうことができる。地理的な制約も軽減され、理想的の相手にめぐりあえる可能性を大きく広げることができる。

50 【0052】郷里を離れて勤務している人や海外赴任者などが、郷里や自国で結婚相手を探す場合にも便利であり、あらかじめ可能性の高い相手をこのシステムで見つけておけば、帰国時に相手にすぐ会ってみることができ、数少ない帰国の機会を有効に活かせる。セッション

で気に入れば、赴任地へ訪ねる決心をすることもできる。

【0053】従来、結婚紹介業では、一定期間内に紹介する人数を制限している。これは、費用的な理由のほか、プライバシーの問題も理由の一つである。しかし、本当は、初期段階ではなるべく多数の相手とコンタクトできた方が理想の相手と巡り会える可能性も高いわけである。本発明は、マスクという概念によりプライバシーの問題を解決している。初期段階においては、プライバシーに関することは、マスクされているので、多くの相手のデータを見ることができる。セッションによりお互いの合意のもとにマスクを解除するので、以後もプライバシーの問題は起きにくい。また、もともと適合性がコンピュータにより確認された相手しか適合者リストにのらず、その中の者同士しかコンタクトできないので、不必要にプライバシーが流出しない。(もちろん、システム運営上の設定により紹介人数を制限することも可能である。)また、適合者リストにのっている相手以外からはセッション申込みやメールが来ることはないので、不特定多数の相手からのセッション申込みやメールに煩わ

【0054】職業紹介、結婚紹介の実施例について本発明を詳述した。仲介人を必要としないことが、本発明の特徴の一つであるが、場合によっては、仲介人を立てたい場合もある。この場合は、本システムを通じて自分のデータと希望条件を提示して仲介人にアクセスし、セッションにより相談することも可能である。また、3者以上のセッションも可能であり、当事者に仲介人を加えたり、当事者の親族を加えたセッションも可能である。人材紹介の場合、仲介人とは、例えば、人材コンサルタントといわれる人であり、結婚紹介の場合には、結婚相談員などである。また、テレビ見合いに親族が加わってセッションを行なうこともできる。

【0055】ある条件を満たす相手を探すことを依頼された仲介者が、このシステムを利用して、候補者を探しだして面談することもできる。

【0056】これらのシステムは、ユーザが簡単に操作できるように分かり易く作られているが、機器の操作などを手助けするインストラクタを適宜配置すれば、一層円滑な運用が計れる。特に、初期段階での各種データの作成時や、はじめての機器操作においては、これらインストラクタの手助けが有効である。

【0057】この他、この人物仲介システムは、ハウススワッピングの相手を探す場合や、大家が店子を探すことなどに応用できる。ハウススワッピングとは、転勤などで、ある地域へ一時期引っ越さなければならない場合に、その地域からこちらへ同様に引っ越さなければならない人を探し、お互いに家を交換することであり、米国ではよく見られる。地域、期間、家の大きさなどを条件とするが、信頼できる相手かどうか重要である。ま

ず、諸条件から適合する相手を選びだし、家の内外観の写真なども見てから、セッションにより相手を確かめることができる。セッションでの相手の姿や態度などから、きれい好きそうか、不注意な人ではないか、問題を起こしそうではないかなどがある程度判断できる。少なくとも変な人を振るい落とすことは可能である。

【0058】

【発明の効果】以上説明したように、本発明は、人物仲介に広く有効に応用でき、従来の煩わしさや、能率の悪さを大幅に改善できる。また、マルチメディアコンピュータ環境でのデータベース、通信、音声や画像によるリアルタイムな通信を連係させてはじめて実現されるものであり、マルチメディアの新しい応用分野を開くものである。

【図面の簡単な説明】

【図1】本発明のシステムにおけるユーザに対するプログラムの動きを全体的に説明するためのフローチャートの一部を示す図である。

【図2】本発明のシステムにおけるユーザに対するプログラムの動きを全体的に説明するためのフローチャートの一部を示す図である。

【図3】セッションを申し込まれた場合の割り込みルーチンを説明するためのフローチャートを示す図である。

【図4】適合者リストおよび表示メニューの表示画面例を示す図である。

【図5】セッション申込みのあったことを示す画面を例示する図である。

【図6】ユーザのシステム操作の様子を略示する図である。

【図7】求職側の自己データの初期状態例を示す図である。

【図8】求職側の希望データの例を示す図である。

【図9】求人側の自己データの例を示す図である。

【図10】求人側の希望データの例を示す図である。

【図11】相手が呼び出しに応じてセッションが成立したときに現れるセッション画面の例を示す図である。

【図12】結婚紹介の場合におけるセッション画面の例を示す図である。

【図13】結婚紹介の場合の自己データの例を示す図である。

【図14】結婚紹介の場合の希望データの例を示す図である。

【図15】本発明による人物仲介用コンピュータネットワークの一例を概略的に示す図である。

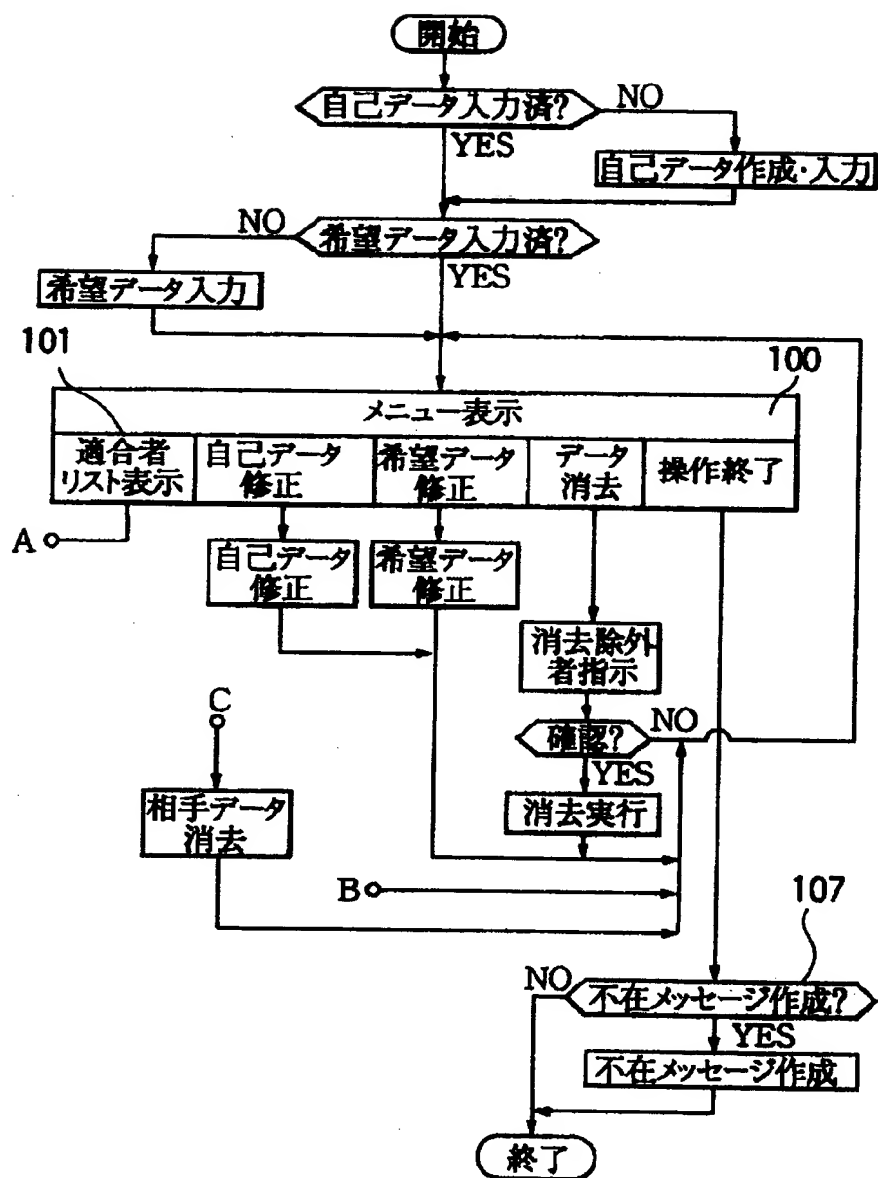
【符号の説明】

- 100 メニュー表示
- 101 適合者リスト表示
- 102 セッション申込み
- 104 メール
- 105 相手データ表示ウインド

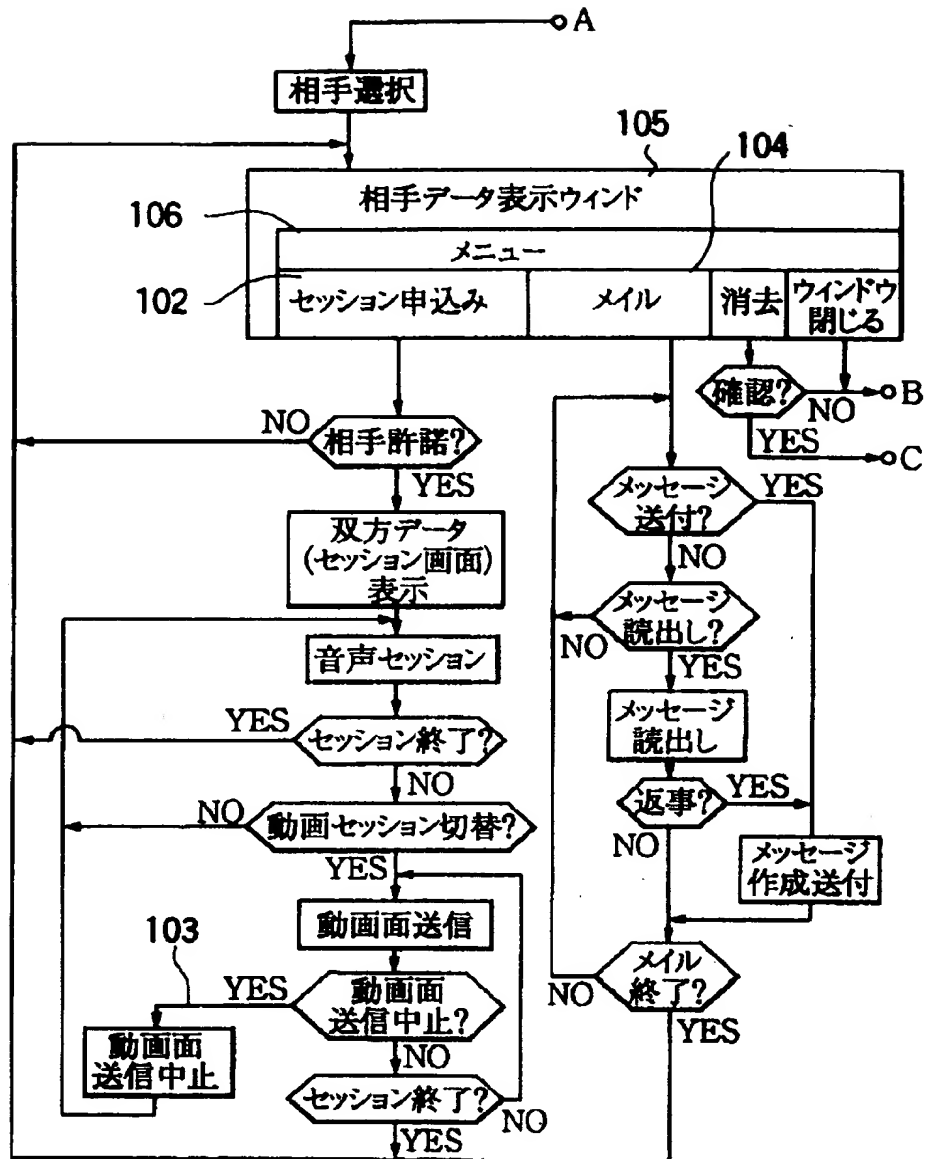
106 メール
 107 不在メッセージ作成
 200 表示メニュー
 201 相手番号
 202 表示条件
 203 あなたが判断する適合度
 204 あなたのつけた愛称
 400 ヘッドセット

401 テレビカメラ
 402 ペン入力表示フラットパネルディスプレイ
 403 ペン
 900 映像
 901 ウインド表示
 902 顔写真
 903 氏名
 904 現在の勤務先

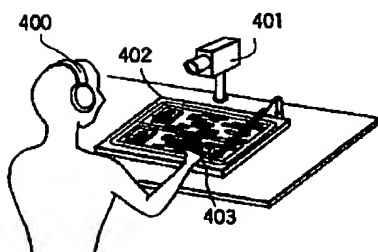
【図1】



【図2】



【図6】



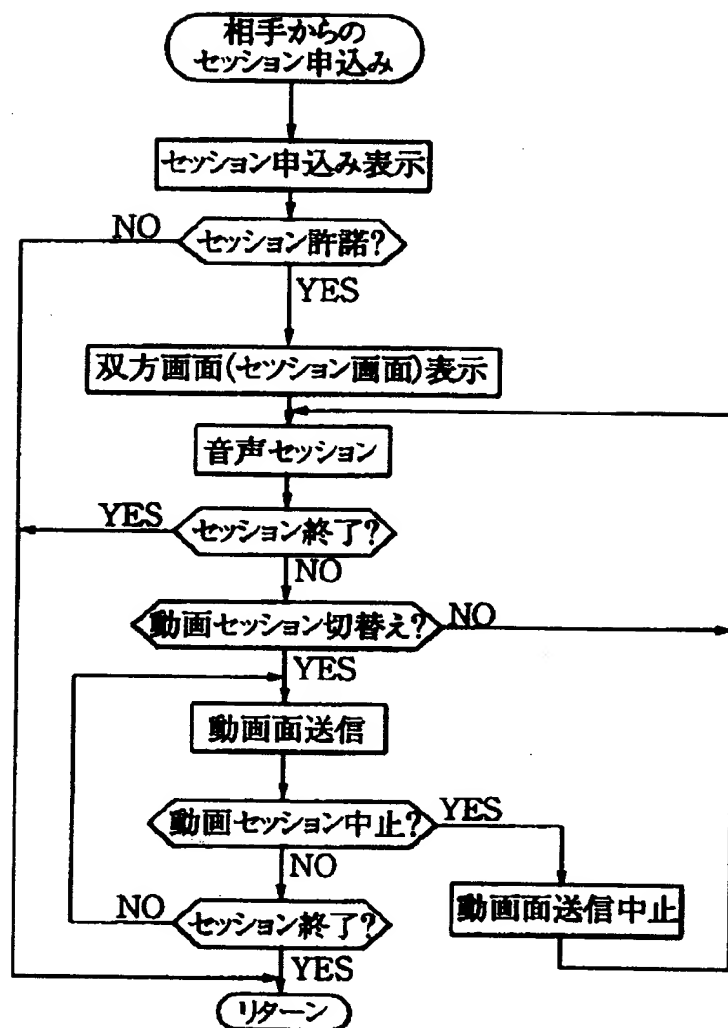
【図7】

Figure 7 is a screenshot of a self-data entry form. The form is titled "自己データ" (Self Data). It contains the following fields and values:

- 年齢 (Age): 32 才
- 在住 (Residence): 東京
- 現在の会社 (Current Company): [Redacted]
- 現在の職位 (Current Position): 主任
- 現在の年収 (Current Annual Income): 600万
- 職種 (Occupation): ソフトウェア技術者
- 最終学歴 (Highest Education): 早稲田大学理工学部

There are also some small icons and labels on the left side of the form, including "写真" (Photo) and "氏名" (Name).

【図3】



【図8】

希望データ		優先度
職種	ソフトウェア研究開発	A
年収	800万以上	A
勤務地	東京及び周辺	B
住居	社宅	B
希望会社名	日本ECC(株)	A
	ABC工業(株)	B
	NTC電気(株)	B

【図13】

氏名
 年齢 才
 生年月日
 在住 出身 県
 住所 市
 電話番号
 職業
 会社名
 役職
 年収
 身長 cm 体重 kg 血液型
 趣味
 学歴 高校卒 早稲田大学理工学部 卒
 スポーツ スキー 語学
 資格・称号 工学博士 A級ライセンス 準指導員
 相性データ

【図9】

会社名 ABC工業
 所在地 横浜市保土谷区
 資本金 25億円
 業種 コンピュータ製造

【図10】

希望データ		優先度
職種	ソフトウェアエンジニア	A
年齢	25-35才	A
年収	750-850万	B
経験	UNIX経験	A
	C++経験	B

【図4】

203 (あなたがすでにデータを読んだことのある相手のリスト)
☆コンピューターが判断する適合度順☆

相手番号	コンピューターが 判断する適合度	あなたが判断 する適合度	セッション日時	本名	あなたがつけた 愛称	メール アドレス	メール パスワード
008	AA	BA	1992.4.11	マスカレディング	オリーブ	1	0
005	AA	BB	1992.3.22	マスカレディング	はだつていません	0	0
010	AB	?	1992.3.22	マスカレディング	はだつていません	0	0
004	BA	AA	1992.3.03 1992.3.21	宮野あえ	りえちゃん	1	4
007	BA	BA	1992.3.15	マスカレディング	ノビー	0	1

200

表示メニュー

202

相手指定 相手番号 本名 愛称

表示条件 ☐ 全部 ☐ まだデータを読んでいない相手 ☐ データを読んだことのある相手
☐ セッションしたことのある相手 ☐ セッションしたことのない相手 ☐ メールがきている相手

表示順番 ☐ コンピューターが判断する適合度順 ☐ あなたが判断する適合度順
☐ セッション日時順(新しい順) ☐ セッション日時順(古い順)
☐ 相手番号順

【図14】

結婚用希望データ

優先度

年齢 ~ 才 A

身長 ~ A

体重 ~ B

職業 B

趣味 C 特技 C

学歴 以上 A


語学 B

兄弟関係 B

【図5】

☆NO.007 ノビーがセッションを申し込んでいます☆

Figure 1 is a schematic diagram of a personal information management system. The system is represented by a large rounded rectangle labeled 900. Inside, there are two main sections: "画像セクション" (Image Section) at the top and "音声セクション" (Audio Section) at the bottom. The "画像セクション" contains a portrait of a man (901), a company name "ABC工業(株)" (902), address "東京都港区", and a list of skills: "1. ソフト開発技術者" and "2. ハード開発技術者" (903). The "音声セクション" contains a stack of audio tapes (904), a list of personal details: "年齢 32才 男性 在住 東京", "希望職種 ソフトウェア開発", "希望年収 800万以上", and "最終学歴 早稲田大学理工学部" (905). The system is connected to a "音声入力装置" (Audio Input Device) and a "音声出力装置" (Audio Output Device) via lines labeled 906 and 907 respectively. The entire system is connected to a "音声認識装置" (Audio Recognition Device) via line 908.

	[音声セアエン]		適合度 [AA]	
	年齢 [24才]	在住 [京都]	最終学歴 [同志社大学教育学部]	
	職業 [小学教員]	年収 []		
	趣味特技 [料理]	技能 [ピアノ]	スポーツ [スノー]	
	兄弟関係 [次女・弟2人]		[両親全] [家族]	
氏名 []	身長 [162cm]	体重 []		
お父さんお母さん		お父さん [] [AA AB BA BC C] お母さん [] [AA AB BA BC C]		